# 坐り心地の悪い椅子

福田恆存

新潮社版

坐り心地の惡い椅子

昭和三十二年七月二十七日　印刷
昭和三十二年七月三十一日　発行

定　價　貳百八拾圓
地方賣價　貳百九拾圓

著　者　福田恆存
發行者　佐藤亮一
發行所　株式會社　新潮社
東京都新宿區矢來町七一
電話東京(34)代表七一一一ー九
振替東京八〇八番

亂丁、落丁のものは本社又はお買求めの書店にてお取替へいたします。

印刷・塚田印刷株式會社　製本・神田加藤製本所
© by T. Fukuda　Printed in Japan

# 目次

あなたまかせのカメラマン……七
西洋食べあるき……一四
味は二の次　アメリカの米の飯　ニュー・ヨークの焼豆腐　ニュー・ヨークの魚料理　欲望といふ町の名　アメリカの貧しさ　ステュアデスの微笑　イギリスの茶　ピカデリーのスコッツ　牛肉の品さだめ　一つ下のでございます　ホーム・グラウンドの味　西洋料理のメニュー
喧嘩を吹つかけられた話……七〇
私の見た西洋　1アメリカの巻　2イギリスの巻　3フランスの巻
アメリカの自然と生活……一〇五
1アメリカのにほひ　2アメリカ文明　3日本では？
悪魔……一一九

高所恐怖症……一二二
ギリシアの金……一二四
取り直したチップ
日本の金……一二七
賭け……一三〇
小病と大病……一三二
旅……一三四
善意といふこと……一四一
不安といふこと……一四四
荷物疎開……一四六
樂しむもよし樂しまぬもよし……一五四
日本の風俗……一五九

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

三十代の正月……一六二
季節について……一六八
文化の日……一七〇
文化の博物館化……一七三
「文化」と「娯樂」……一七七
末梢神經の刺戟……一七九
映畫のメカニズム……一八一
當意即妙……一八三
テレビのせりふ……一八六
きのふけふ……一九〇
必要惡　自己批判　疑惑　無力の悲鳴　サービス　自分のことは自分で　言葉の誤り　「オセロ」　知識人の責任　震災の役割　裁判ご

つこ　當用漢字　土地の呼び名　新聞週間　映畫ふたつ　「大英帝國」　謝金支給書　文化の日　變節　動亂と新聞報道　便利と不合理　短大の格下げ　完敗と大勝利　タクシー　デモ行進　「進歩的文化人」

新聞をめぐつて……二二〇

舞臺うらの事實　新聞記者には良心より才能を　私は眞相を知りたい　まじめな顔をした川柳　比喩的俗語の濫用　新聞と運動神經　素顔のないもののみが風潮を作る　氷山の頭だけの報道　私情でも筋を通せ　惡黨にバッジはない

俗物論……二四八

はしがき　「地域俗物」中央型　「地域俗物」地方型　「先生」と「床の間」　「肉體的俗物」と「精神的俗物」と、それから……　俗物とは何か　自己擴大の心理　俗物の排他的傾向　俗物擁護論

あとがき……二六八

# 坐り心地の悪い椅子

# あなたまかせのカメラマン

昭和二十八年の秋、外國へ出かけるまへに、おなじ町に住む寫眞家濱谷浩さんから愛用のカメラをゆづりうけた。毛なみは正しい、れつきとした品物である。

横濱から出帆したのだが、船が出るまで義弟がそのカメラで、船中の風物や私の颯爽たる出陣の姿を寫してゐた。そこまではよかつたのだが、見送人の下船の寸前、かれは私のところへきて「どうもカメラのぐあひがをかしい、まきとれなくなつてしまつた」と訴へた、まだ二十枚も撮つてゐない、もとにもどさうとおもつたが、それもだめだ。フィルムを入れたのは私だから、だれにも文句はいへない。

これが最初の失敗だ。じつは、友人たちがカメラをもつてきて、私を寫してゐるのを見て「よし、それなら、出帆と同時に、テープの伸びた瞬間、甲板の上から逆に連中を寫してやらう」腹のなかで、さういふ惡だくみを考へてゐたのだ。私のはうなど見もせず、隣のつれとの話に夢中になつてゐるやつもゐるかもしれない。「あんちきしやう、いつちまやがる、これでせいせいした」そんなことを話してゐるかもしれない。フィルムに話は寫らないが、その内容を裏切り示す表情くらゐならへられるだらう。私はそのつもりだつた。だから、この最初の失敗は、はなはだおもしろくなかつた。

私は仕事をしのこした氣持で横濱を出た。惡友たちは助かつたのである。が、天網恢々疎にしてもらさず、翌日、船の一隅に、出帆のときのテープをにぎつた船客はもとより、見送人たちを寫した八ツ切の寫眞が何枚もはり出された。テープが切れて船のあとを追ふところまで組寫眞で細大もらさず出てゐる。船のなかにある寫眞屋の仕事だ。もちろんスーベニーアとして船客に買はせようといふ算段だ。いくらだつたか忘れたが、相當高かつた。私は欣喜雀躍して數枚を買つた。私の豫想どほりだつた。寫眞屋の望遠レンズは、見送人の表情をみごとに傳へてゐる。表情だけではない。終始そつぽを向いてゐるなんていふのは、まだなまやさしいはうで、テープが切れないうちから、すでに私のはうへ背を向けて、さつさと退場におよぶたのもしい親友のうしろ姿まで、じつになまなましくとらへてゐた。私はこれをホノルルから家に送り、家寶として珍藏するやう命じた。

第二の失敗は、グランド・キャニオン（ニュー・メキシコ州にある大溪谷）でのことである。私はその大景觀に目を見はつた。汽車が砂漠のなかの一支線の終點に著くと、すぐホテルで、その食堂から眼下に壯大なグランド・キャニオンがひろがつてゐるのが見える。ホテルのある地點が海拔七、〇〇〇フィート、溪谷の底にコロラド川が流れてゐるのだが、そこが二、四〇〇フィートの高さだ。私はカメラを肩に、そこまで騾馬で降りた。同勢四人、生れてはじめて馬に乘つた私は、そのとき一大發見をした。馬が降りる險崖は道幅二尺くらゐで、乘つてゐる私の目から見ると、馬の胴の幅よりあきらかに細い。急なのと乾いた砂道のため、ときどき馬がずるりと足を踏みすべらす。私は下りはじめて二、三分で後悔した。とんでもないことになつたとおもつた。それから三十分ば



试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

かり、生きた心持もなく、兩手で手綱をしつかとにぎり、たてがみにしがみつかんばかりにしてゐたが、これから下り四時間、こんな調子では困るとおもつた。私は自分の氣持を納得させるため、くらの上から馬の歩き方をしさいに檢討した。そしてはじめて、次の大發見をしたのである。馬の胴幅は二尺をこえるかもしれないが、馬の足が歩くのに要する線の幅はせいぜい五、六寸である。その線の上を馬は、じつに正確に歩く、道幅二尺あれば大丈夫なのである。

その發見のためばかりではあるまいが、三十分後には私は平常心をとりもどした。片手をはなしてタバコくらゐ吸へるやうになつた。次には、持參におよんだカメラの存在に氣づく餘裕をとりもどした。だが、ねらひをきめるため兩手をはなすことはできない。私は片手で何枚か撮つた。もちろん、ぐらぐら動く馬上では、うまくいきつこない。そのうち、私は第二の發見をした。馬といふものは案外たびたび大小便をするものだ。便祕症の私がうらやましくなつたほどである。同勢四人、カウボーイ姿の案内人を入れて五人、すなはち五頭の馬が、かはるがはる大小便をする度數は相當なものだ。小便のときには、かならず停止する。一頭が用のあるときには、案内人の命令で全部が停止するのである。安定した姿勢で寫眞を撮るのは、このとき以外にはない。私は馬の小便のたびにカメラを周圍に向けた。被寫體を選ぶのは私の審美眼ではない。馬である。いや、馬の膀胱である。

私はいゝ光景だなとおもつたところを、五頭の馬のどの膀胱も放尿の必要を感じないといふ、ただそれだけの理由のために、やむなく見すごしていかなければならなかつた。そればかりではない。まるで條件反射みたいに馬が小便すれば、かならずカメラを持ちあげるといふばかばかしい操

作をくりかへすうち、溪谷の底に著いたときには、手持のフィルムをすつかりつかひはたしてしまつてゐた。あとで知つたことだが、歸りには、案内人が景色のいゝところでは馬をとめ、客の注意をうながして、寫眞をゆつくり撮らせたのである。さういへば、下るときに、二、三度そんなことをいつたやうにおもふ、ほかの客たちがカメラを持つてゐながら、撮らなかつたのもうなづける、しかし、アメリカに著いたばかりの私は、アメリカ流の、それもニュー・メキシコなまりの英語はよくわからなかつたのだ。歸路、みんなが落ち著いて寫眞を撮つてゐるのを見て、私はなすこともなく、ぼんやり待つてゐた、あのときはずゐぶんくやしかつた。

グランド・キャニオンの廣大な景觀を見て、私は廣角レンズがほしくなつた。そのときばかりではない。日ごろ、私は、ひとの寫した寫眞を見るたびに、一種の焦躁感を感じる。自分の寫したものなら、現場を見てゐるので、寫された部分の狹さを補つて見ることができる。しかし、他人の寫したものでは、それができない。寫されてゐる部分が、どういふ全體のうちにあるのか、それがわからない。

廣角レンズを使つて見たところで、たかはしれてゐる。たとへ、自然を横につぎつぎと寫して、それをつなげてみたところで、自分が立つてゐるうしろはどうにもならない。うしろに目はないが、私たちは自然を眺めるとき、やはり、うしろを感じてゐるのである。うしろを見てゐるのである。現場にゐるときは、うしろが森であるか、パチンコ屋であるかによつて、眼前の自然の樂しみ方はちがつてゐるはずだ。それが寫眞ではおなじである。これは奇妙なことだ。

そんな文句をつけたところでしかたがない。とにかく、どうせ寫すなら廣角レンズのはうがいゝ、

さうおもつた。ニューヨークについて、高層建築と、うしろにひけない狭い道路とを見て、私はいよいよその必要を感じた。日本へ歸つたら賣ればいゝ、こゝなら安く買へる。さうおもつて私は廣角レンズを買つた。

ところが、私はニューヨークでは、ほとんど寫眞を撮らなかつた。半年も定住すると、もう旅といふ氣持がなくなり、私はカメラをアパートの戸棚のなかにはふりこんだまゝ、めつたに外に持つて出なかつた。いろいろ見たり、調べたりすることがあつて、その暇もなかつた。そのうちにはじめてニューヨークを見たときの新鮮な感じが消えうせ、半年後には、寫してみようといふ氣もなくなつてしまつた。

それに、いぢのわるいもので、そこに住んでみると、たまに氣がむいてカメラをぶらさげて出たときには、寫してみようとおもふ場所に出あはず、カメラを持つてゐないときにかぎつて、夕燒を背景にしたRCAビルとか、雲霧で上のはうが見えないエンパイア・ビルとか、さういつたものにぶつかるのである。たびたびさういふめにあふと、氣をつかふだけ、いやなおもひをするから、もう寫眞を寫すまいときめてしまつたのである。

イギリスでは、ずゐぶん旅行をしたので記憶補助のために、かなりたくさん寫眞を撮つた。じつは、その小旅行のひとつに、オックスフォードへ出かけたとき、汽車を待つあひだ、スタンドに寫眞撮影の手引書を見つけて、そのときはじめて、どうせ寫眞を撮るなら、すこしは氣のきいた寫し方をしてみようといふ氣になり、その本を買つて車中で讀んだものだ。オレンジのフィルターを使

ふなどといふ手も、そのとき知つたのである。それはソールスベリー寺院を寫すときに、はじめて使つた。

イギリスからあとは、ほとんど全部、廣角レンズを用ゐた。これはさつきいつた理由からであり、私の性格にあふのである。人物はほとんど寫さなかつた。フランスからあと、ことにスイス、イタリアでは、もつぱらカラーを用ゐた。そのスライドを見てゐた友人が「西洋は人間が少いんだねえ」と感心してゐたが、それは事實としても、イタリアの町中で人通りが少いなんていふことはない。私はいぢになつて、人間を避けたのである。古いお寺を寫すのに、自動車や現代の人間はおもしろくない、チャンバラ映畫に電信柱が寫つてゐるやうな感じだ。しかし、これは私の偏狹な古典主義の犯したあやまちかもしれぬ。私は寫眞藝術としてのリアリズムを、もうすこし珍重すべきだつた。

巻頭にのせた寫眞は、ほとんど旅行後半期の作で、フィルムのまゝ日本に持ちかへり、この一文を書くためすぐ現像引伸したもので、大部分はまだネガのまゝ密著してゐない。そのなかに傑作があるはずだといふ私の夢が、永遠に幻滅に出あはぬためにも、そのまゝにしたはうがよささうだ。

なにしろ私のはめちやで、たとへなかにどんな傑作があつたにせよ、それは、ことごとく偶然の所産で、絞りがどのくらゐ、露出が何分の一などといふことは、ぜんぜん記憶してゐない。アメリカに渡る船のなかで買つたウェストンの露出計をたよりに、それも、はなはだあやしげな使用法で、

パチパチやつてゐたにすぎないのだ。現に、その使用法がまちがつてゐたことを、歸つてきて、人から聞いて知つたほどである。

寫眞といふのは、一に被寫體と、それにたいする角度の選び方ひとつで、あとは露出計さへあれば、そのあらゆる組みあはせを、フィルターの、あらゆる組みあはせに掛けあはせて、たくさん撮つてみれば、少くとも自然や建造物に關するかぎり、專門家と同樣の傑作ができるはずだ。私はそんなへりくつをいつて濱谷さんに笑はれた。

ごらんにいれたもののなかに、萬一、いゝ寫眞があれば、それは被寫體がすでに寫眞向きだからである。日本の風物や人間は、どうもカメラには向かないやうな氣がする。どうであらうか。

いづれにせよ、私は徹頭徹尾、あなたまかせのカメラマンだった。

（「カメラ毎日」昭和三十年六月號）

# 西洋食べあるき

## 味は二の次

私は最近一年間、歐米をまはつてきたが、食物でかほど不自由するとは豫想しなかつた。だれでもさうだが、私はうまいものが好きである。うまいものなら、洋の東西を問はない。慣れ不慣れも氣にならぬたちである。戰爭中、ハルピンから北支中支にかけて二箇月ばかり旅行したことがあつたが、その間、一度も米の飯がほしいとおもつたことはなかつた。蒙彊の大同で、生魚の鮨をごちそうされたことがあり、そのときは、さすが禮儀正しい私も、つい嫌味が口に出たほど腹がたつた。鮨はなによりの好物だが、蒙彊くんだりまで來て、腐つたやうな鮨を食ひたいとはおもはない。嚴密にいへば、私はうまい鮨が好きなのであつて、たゞ鮨が好きだといふのではない。どこへいかうと、その土地のうまいものさへ食つてゐれば、けつして味噌汁や茶漬けが戀しくなるやうなことはなかつた。

だから、今度の外國旅行でも、食事に不自由するなどといふことは夢にもおもはなかつた。それが最初アメリカへ著いて一週間もたゝぬうちに、悲鳴をあげてしまつたのである。

私はまづカフェテリアといふものに反撥を感じた。サン・フランシスコでは、私の本能がおのづ



试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com